

透析中のシャント肢痛に対する良肢位および運動の検討

長崎腎病院

○山下亜希 米田千恵子 田川英由子 林涼子 白井美千代 丸山祐子
澤瀬健次 宮崎健一 李義明 船越哲 原田孝司

【目的】

透析中の安楽な肢位（良肢位）を検討することで疼痛緩和を図る。〈BR〉【方法】
当院外来透析患者 292 名のうち透析中にシャント肢痛を訴える患者 89 名において、リハビリテーションにおける良肢位を参考とし、透析中のシャント肢保持角度を良肢位とした疼痛の変化を、numeric rating scale (NRS)にて調査し解析する。〈BR〉

【結果】

透析中に最も痛みが軽減する角度は、肩関節外転 30 度（平均 NRS4.2）・肩関節内旋 60 度（平均 NRS4.6）・肘関節屈曲 75 度（平均 NRS3.8）・手関節掌屈 10 度（平均 NRS3.2）などであった。更に、上記の良肢位に加えて透析中 1 時間毎に軽度の位置変換（20 度）をした群では有意に痛みが軽減した（ $P < 0.05$ ）。〈BR〉

【考察】

従来検討されることの少なかったシャント肢位の検討により、透析中のシャント肢痛を軽減できる可能性があることがわかった。また、透析中に「動いてはいけない」という患者の認識を払拭し、透析中に位置変換を行うことも有用と思われる。